

2024年（令和6年）8月

## 「鶴舞藩を知る会」の復興について

（提案と協力をお願い）

### 鶴舞藩の歴史

市原市南総地区の鶴舞には明治維新直後に鶴舞藩がありました。この鶴舞藩は時代の狭間で翻弄されわずか2年10ヶ月の短命でした

#### 浜松藩が転封を命じられる

明治元年5月、新政府は徳川宗家の徳川家達を駿河国（現在の静岡県）の駿府藩主とし70万石を与えました。このため近隣の小藩はこの地から追われることになりました。浜松藩（6万石）も明治元年9月、上総国に転封を命じられました。これが鶴舞藩の始まりです。

浜松藩主の河内守井上正直は明治2年1月に藩士を従え浜松城を発ち2月には上総国埴生郡長南矢貫村（現在の長南町）に到着、三途台長福寿寺に（後には同村内の浄徳寺に）仮役所を置きました。

#### 鶴舞に本陣を構える

明治2年3月、井上正直は市原郡内田郷石川村地内桐木原（現在の鶴舞）に陣屋を作り移り住むことを新政府に願い出て許可され、この地の開拓を始めました。さらに版籍奉還を申し出、6月には鶴舞藩知事を命じられました。

明治3年4月には桐木原の開拓が進み知事邸宅や藩士の家屋なども落成し、矢貫村から桐木台へ移り住みました。

#### 鶴舞藩庁での施政

鶴舞藩は、北は菊間藩支配地との境や現在の千葉市の一角、南は大多喜藩支配地との境までの領地（206村、戸数1万3千余、人口6万3千余）を有し、現在の鶴舞・南総地区はこの領地の中心でした。ここで、倹約の徹底、産業の奨励、生活困窮者の救済、藩校の設置と教育の奨励など、現在の世でも高く評価できる善政が精力的に行われました。しかし、明治4年7月に鶴舞藩は廃止され、鶴舞藩の歴史は終わりました。

なお、同時に鶴舞県が置かれ井上正直は鶴舞県知事を命じられましたが、そのわずか4か月後、鶴舞県は廃止され木更津県の一部になりました。

#### 超短命藩！

「鶴舞藩は2年10ヶ月」と言われていますが、これは転封を命じられてから鶴舞藩

の廃止までが2年10ヶ月、実際に鶴舞藩が置かれたのは2年1ヶ月、この間で鶴舞に陣屋を構えたのは僅か1年3ヶ月です。

このため史跡も少なくお濠跡や大井戸などわずかに残るのみですが、現在の鶴舞公民館は藩校克明館の跡地にあり、庭には鶴舞藩ゆかりの名士、名家老伏谷如水と藩士石川倉次（日本点字の創始者）の碑などがあります。

## その後の鶴舞

鶴舞藩は短命でしたが藩主井上正直の尽力・善政により発展し、鶴舞は経済・文化の中心として栄えました。多くの商店が軒を連ねる商店街、銀行、教育機関、警察署、郵便局、旅館などもあり、定期的に市も立つ繁華街となりました。現在も親しまれている鶴舞民謡は当時の繁栄を物語っております。しかし第二次世界大戦以後は交通手段や生活様式の変化に乗り遅れることも多かったのか、次第に衰退し現在に至っています。

## 鶴舞藩を知る会

鶴舞藩に所縁の静岡県静岡市には、郷土の名士清水次郎長の功績をたたえる会「清水次郎長翁を知る会」があります。市内藪在住の塚原茂氏がこの会と交流をしたことをきっかけに、平成11年7月、鶴舞藩の歴史を紐解き後世に語り継ぐため「鶴舞藩を知る会」が発足しました。会長は鶴舞在住の内藤昇氏、事務局長は塚原茂氏、他数名の会でした。

その後、鶴舞藩の歴史を記す石碑の建立や「清水次郎長翁を知る会」との相互訪問などの活動をしてきました。しかし発足当時の会員が高齢化などにより会員は減り、現在は決まった活動は無く実質休会状態です。

## 提案と協力をお願い

このように鶴舞藩は短命であるが故に史跡も少なく、また歴史を伝承する機会も特に無いため、このままでは歴史が忘れ去られかねない状況です。さらに唯一伝承を担い得る組織「鶴舞藩を知る会」も存続が危惧される状況です。

ここで鶴舞藩の歴史を理解し後世に伝えることの必要性を痛感し、休会状態の「鶴舞藩を知る会」を復興することを提案します。そして、この趣旨にご賛同いただける方を広く募ります。

当面の具体的な活動は以下を想定しています。

- ① 史跡の保護活動
- ② 鶴舞藩の歴史に精通している歴史家の講演・説明による歴史の理解と共有
- ③ 次世代への歴史の継承活動
- ④ 多くの方に歴史を知ってもらう広報活動
- ⑤ 「清水次郎長翁を知る会」との交流事業

「鶴舞藩を知る会」事務局長 塚原茂  
復興発起人 角田幸紀